

琉球大学学術リポジトリ

沖縄関係 沖縄返還交渉Ⅱ-3（対内）

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2020-05-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/45931

總理 俾口 俊紀 石谷 史
(十一 二六)

一般情報

44. 11. 27 (No. 272)

1. 総理一行帰国（26日）

サトウ総理は夫人、アイチ外相等と共に26日午後3時3分のハネダ着帰国された。空港には保利官房長官、フクダ蔵相も各閣僚、川島自民副総裁、タナカ幹事長ら党首のうちが出迎えた。なお上京中のヤラ主席は出迎えを中止した。

総理は空港ランプ内でステートメント（後述）を説き上げ、「サトウ総理万歳」に応じて「日本国万歳」の音頭を取られた後、出発の時と同様ヘリコプターで官ていに帰着された。

サトウ総理大臣のハネダ空港到着の際の帰国ステートメント要旨（26日）

私はまず、今回の私とニクソン大統領との会談の結果、全国民の待望するオキナワの祖国復帰が、1972年中に、核ぬき、本土なみという国民の総意にそつた形で実現することとなつたことを報告する。

これから、本土とオキナワの双方で、オキナワの本土復帰のための具体的な準備にとりかかるが、私は、オキナワの本土復帰は施政権返かんの時点で終るものとは考えてい

ない。オキナワがゆたかなげんとなり、また本土復帰がオキナワげん民/人/人にとり物質的にのみならず、精神的にも真に意味あるものとなつたときに、はじめてオキナワの本土復帰は完成する。われわれ日本国民は、かかる信念の下に、全力をあげて、この歴史的事業に取り組んで行こうではないか。

さて、今回の訪米で、私は、ニクソン大統領との間で、1970年代の世界で、日米両国が果すべき役割りにつきよく顧なき話し合いを行なつてきた。オキナワ返かんをもつて、日米友好関係は今後、一層強固なものとなることを期待される。私は、この見地から、ニクソン大統領との間で、日米安全保障条約のけん持を確認し合うとともに、1970年代の世界、特に、アジアの平和とはん栄のために、日米両国が今後一層の協力を行なうことにつき合意した。

私は、オキナワ返かん問題の解決は、わが国が国内的にも国際的にも、真の平和国家として新たな飛躍をとげるための重要な契機となると確信している。

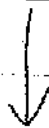
3. サトウ糖理監者会見（26日の帰国後）

26日帰国したサトウ首相は、同日午後4時35分から首相官邸別館で約1時間におたり内閣記者団と会見。日米首のふ会談の経緯と成果、今後の政同などに対する所感を明らかにした。

首相記者会見の内容は要点次の通り。

（問）該ぬき、本土なみ返かん、ということだが、該についてにはつきりしない、という批判がある。共同声明第8項は「米の立場を害しないことを条件と……」となつてゐるが、この条項はサトウ首相の方から入れた、とワシントンでいわれた。有事の再持ち込めるの権利を米に留保させたものか。

（答）それは2つある。1つは本土なみ、他の1つは該ぬきだ。オキナワがかえつた場合、本土の取り扱ひがそのままオキナワに適用され、何ら変更ないということだ。これははつきり本土なみである。もう1つ、本土に該があるか。本土にはない。本土と同じにオキナワに適用するなら何ら疑いをさしはさむ余地はない。事前協議をこころにく



共同声明に)入れたといつて心配(するもの)がある。しかし嘗かなければ、事前協議(条項)がないというだろう。本土に事前協議がある限り、オキナワにも改めて事前協議の条項を明確にしておく。これで本土なみということだ。

(問) 非核3原則について国民の意思が変わらない限り、総理もその考え方を持ち続けるのか。

(答) 非核3原則は日本政府のはつきりした考え方だ。政府は事前協議条項の原則にてらして、はつきりした態度で臨む。これほど明確な態度が、一部にわからない人がいるらしいのだが、どうも不思議でならない。

(問) 非核3原則を守る立場にてらして考えると、72年以降、有事の際の核の再持ち込みはありえないといえるか。

(答) これははつきりといえる。事前協議にかける。私どもは非核3原則を守る立場に立つて、事前協議に臨むのである。

(問) 首相はプレスクラブでの演説で、韓国に武力攻撃が発生したら、日本の安全に密接に関係するので事前協議でも前向きかつすみやかに対応するといっている。野党は事前協議でのイエスを予約したと受け取っているが……

(答) 現実に朝鮮半島に緊張はある。どういふ事態がおきるかが心配だ。日本は対がんの火事のようにしていただけるか。本土に火がつくのではないか。そういう認識のいかんによるだろう。私は朝鮮半島に何か起きたときに関心を持たざるを得ない。事態が起れば、憲法で許される範囲でやる。というのは当然だろう。非武装中立で心配ない。というのと私は違う。事態が日本にどう影響するか。そうしたことで日本に心配ないか。私は関心を持たざるを得ない。共同声明で「前向き」ということはいつも協力する。ということではない。ことはの問題だが「積極的に」ということにしようか。という話もあつたが、これでもピッタリしない。

(問) 72年にベトナム戦争が終わっていない場合、B52は発進するのかどうか不安を感じているが、首相の考え方はどうか。

(答) 結論からいえばベトナム戦争があつても、オキナワは72年中に返ってくる。これははつきりしている。その場合、B52などは、そのときに相談しようというのである。ベトナム戦争が返らぬ(めがけ)というのなら大変だが、オキナワは72年中には返ってくる。ベトナム戦争の問題をそこまで書く必要はないのではないかという感じもするが。

こういう事ならば、あらゆる場合を考えて、責任をばつきりする意味で、その時点でまだ戦争が終つていなかつたらという場合を想定しているのだ。

(問) 共同声明やナショナルプレスクラブでの首相のことはをみると、北朝鮮は侵略的だが、中国はそうではないといつているように聞えるが、中国の言ふことについて日米間で、なにか考え方の変化があつたのか。

(答) 誤解をうけると困るが朝鮮半島の緊張は現実である。北朝鮮が侵略的だといふことは確かではない。ブエノスアイレス事件やその他の事件が現にあつたのだ。台湾海軍もいろいろな事態が生じているかを見ると朝鮮半島とくらべると格段の相違がある。その点ではつきり区別している。中国問題にしても日米間では緊張緩和に努めようといつているのだ。中国自身もこの際態度を変えてほしいと思う。

(問) しかし共同声明をみると、区別しているといつても韓国と台湾の安全に、共同して責任を分担したという感じをうけるが。

(答) 安保条約の極東条項を削除すべきだといふ意見もなさいふん限い。しかし、朝鮮半島や台湾の問題がある。それが日本の安全に関係ないとは思わぬ。当然関心をもつている。国民にもその関心はあることをばつきりさせたい。

。私どもはその立場に立つて考えていかなければならない。また安保条約を適用する場合、極東条項を削除せよという強い要望があることは私も知っている。しかし日本の置かれている立場からそう簡たんではない。

(問) 米国は中国に対しじゆう軟な態度をとる動きがあるが、日本が韓国と台湾の防衛について強調したのでは、中国をし慰することにならないか。

(答) それはないと思う。逆にむしろ、この点に触れなかつたら日本国民の方が心配だろう。日本を侵略する気がなかつたら、あそこで述べられている程度のことばなんでもないだろう。日本は一かんして、なんとか緊張かん和に努力している。日本人たいほの問題があつたあとのことでもあるし、日本は平和国家なのだから、緊張かん和の努力をするということばないといけな。2年前の共同声明では日本側は政経分離だつたが、アメリカ側は触れなかつた。今回はこの2つを音きわけていないところに注意してほしい。米国も中国との緊張かん和の努力をしているわけだ。

(問) サトウ首相とニクソン大統領との会談の中で、緊張かん和についてなにかやろうということば話し合つたか。

(答) そういう空気はあつた。しかしそれ以上のことば

いまはやはりいうわけにはいかない。

(問) 核防条約は米ソが批准したことによつて新しい事態が生じたと思うが、わが国はどうするのか。

(答) いままでの政府の考え方ははつきりしており変えるつもりはない。日米会談というトップレベルでの協議を上げないのが通例だ。

(問) 国内政局は、年内投票に一直線に進んでいる。この野流は、首相でも止めやれないのではないかといわれているが、どうか。

(答) いま解散の話がでたが、私は出た時の心境といまの隔つてきた時の心境とは同じだ。考えがまだ決まっていない。このオキナワ問題でコミユニケ/本でもさあどうだといつたのが、やや誤解をうけている。コミユニケは立派だが、ほかに何か取決めがあつたのじゃないかと心配されているようだが、絶対ありません。

(問) 首相の訪米成果について、国民の一部にある疑問をときほぐすためにも臨時国会では予算委員会、外務委員会を開き、十分審議すべきだとも思うがどうか。

(答) そんなにまで時間をかけなくちゃならないのか。すでに説明は十分されているし、わずかなことでも理解されているようにも思える。それよりも、先のことをもつと考

える必要があるのではないか。来年度予算案の編成やオキナワの国政参加などのし事にとりかかるべきではないか。国会も大事で、これらを十分審議しなければならぬが、けん明な代議士ならビシヤリとわかつてくれると思う。

(問) 首相がサンフランシスコでいわれたことが、四選断念などとき伝わっているが……。

(答) 私が名をほど空響で心境を一言いつている。その方があとで出ているので確かだ(爆しより)。とにかく国民への帰つてからの第一声なのだから、これが決意でなかつたら……心と違ふことをはいおない。十分でないにしても、私の決意であり、方向である。